

1、『年中行事絵巻』と行事絵の諸問題

() 先行研究における行事絵の位置づけ・語られ方

やまと絵...日本的な風俗が絵画に描かれるようになる。四季絵・月次絵として行事をとり上げる。

倭絵風俗画 - 公私の儀式を画いたもの：多くは饗宴〔家永 1946：274〕

『年中行事絵巻』...行事絵の典型

通説的理解：信西（藤原通憲）主導による保元（1156～58）の大内裏復興・朝儀再興の気運下に制作開始。

後白河院の企画による一大集成。...信西政権と後白河院政とのギャップは？

似絵...或る年月日の特定の行事を描く絵画に、参加者の似絵が盛り込まれる。肖像画の問題の観点から。前提には 直近の出来事の記録 としての性格づけ。

() 池田忍氏の議論

「(引用者註：「承安五節絵」をとりあげながら、構図が伝統的であると評価し、)晴れの行事そのものの盛儀を一種普遍的に絵画化した行事絵の制作が先行して、特定の年時〔次〕による行事の絵画化が試みられたのではなかったろうか」〔池田 1988:11〕

「『年中行事絵巻』は...(中略)...特定年次の行事を具体的に表すものではなく、年毎に繰り返されるそれを普遍化して描いたものと理解される。これに対して、他の行事絵においては行事の特定性が追求されたと推測されることが重要である。」〔池田 1991:319〕

池田氏はここから先、行事の特定性の問題を、誰が参加者であったのか という問題に置き換えて議論を展開するが、その議論が基本的に破綻していることは以前指摘した〔藤原 1996〕。

二類型の行事絵を想定し、普遍化したもの(具体的には『年中行事絵巻』)から、特定年次のもの(+行事絵的背景から離れた似絵)への発展として捉える。『年中行事絵巻』に個性・独立性を付与して が成立。

() 試論

はたしてそうなのだろうか？ 『年中行事絵巻』を見ていて気づいた論点をあげてみる。

『年中行事絵巻』の一部の巻にみられる、行事の流れ(行事次第)を描くという性格。

ex.住吉本「賭弓」「内宴」「御齋会」「着ニ政」「賀茂祭」、住吉別本「賀茂臨時祭」、鷹司本「除目」など。

先行する 行事を普遍化して描く絵画においては、中心的・象徴的な一場面を描くものが大半でなかったか。

屏風・障子絵の一場面などとして年中行事が選ばれる。行事絵の初例、10世紀『兼盛集』の一組の連作。

一方、特定行事に取材する絵画においては、行事の流れ が描かれた可能性。卷子。

cf.『源氏物語』絵合巻に所見の節会の絵、承安五節絵。

『年中行事絵巻』を、特定行事であることを臆化して 行事の流れ を描くものの集成と位置づけられないか。

『年中行事絵巻』は現存模本が全体の一部分とはいえ、体系性や統一性を必ずしも備えていない。

当初から全体構成が計画されて制作されたというより、個別の契機により制作されたものの集積との解釈。〔國賀 1988〕が指摘するように、ある特定の時代性が画面に濃厚に残る。

cf. 「仁安大嘗会御禊行幸絵」奥書：仁安元年（1166）の六条天皇の御禊行幸の準備として〔藤原 2001a:54〕

従来のように通年の年中行事書と比較するのではなく、部類記編成の類型を参照するのが適当ではないか。

史料の構造という点で行事絵と文献史料とを比較すると、行事絵における 普遍化 / 特定年次の対比の関係は、文献史料における儀式書・次第書 / 記録・日記との関係と対照性がある。

儀式書...一般化されたもの。恒例行事を月次に追ってゆく。従来の『年中行事絵巻』の復原案は、全体構造・構想が儀式書・年中行事書と同様なものと仮定してのもの。

日記（公家日記・記録）...特定の年次の個別的な記録。

部類記...特定、もしくは複数の日記から、主題別に部類集成。個別の事例としての側面と行事一般の側面。

『年中行事絵巻』の編成は部類記に近いものでは？ 「宮中神事」巻・「諸社祭礼」巻？

『年中行事絵巻』を行事絵の代表例とする認識の枠組みを再考。

2、行事絵の作例 〔藤原 2004:288-291〕

- () 先行する 行事を普遍化して描く絵画のうちにも、
特定の契機に応じた鑑賞の場での意味の付与が前提となる事例あり。
- () 特定年次のもの
模本や詞書のみが残る作例
記録に所見が残るのみの作例

3、行事絵の絵画としての特徴

- () 一構図の反復 行事の流れ を描く
『吉備大臣入唐絵』〔塩出 1986、黒田 1998〕、『信貴山縁起絵巻』〔谷口 1944、村重 1991〕、『粉河寺縁起絵巻』〔村重 1991〕などでは、舞台の書割のごとく同一構図が繰り返し用いられる。

同時代的な画面構成の論理・物語絵画の構造。

- () 背景描写・群集表現 行事における見物人の問題
民衆的世界に極めて強い関心を抱き、描き込む姿勢。
「口実」としての年中行事絵の枠組み。(ただし、「口実」が把握されているとは言い難い研究状況。)

- () 似絵（似顔絵）の問題
行事の特定性。参加者の個別性。

行列図については、「見物」「交名を問う」行為との関係が密接〔藤原 2001a〕。
名前と顔。(画中に記名がなされれば、必ずしも似顔絵でなくともよくなる側面も。)
似絵論への新たなアプローチ〔伊藤 2001・2002〕

4、行事絵の詞書〔藤原 2001b・2004〕

現存する『年中行事絵巻』模本は、絵のみの抜き写し。 には、詞書の存在が必然的に
想定される。

『安元御賀記』などの仮名の日記の成立。仮名別記 というカテゴリー、ジャンルの形成。
実用的な故実規範の次第・真字記録と、行われた場の空気を伝える仮名記(絵詞・屏風な
ど)の両輪をもって、朝儀の営みを伝え残す。〔三島 2002:13〕

5、行事絵の制作契機

記念すべき行事(となすべく)を回顧的に描く。

承安三年(1173)最勝光院御所障子絵の画題となった出来事〔藤原 1996〕

平滋子の平野行啓・後白河院の高野御幸：仁安四年(1169)3月、高倉の即位直前。
建春門院日吉御幸：不明

『年中行事絵巻』の難問

内裏復興における信西の主導性と、『年中行事絵巻』における後白河院との時期的齟齬。
後白河院・建春門院・高倉天皇の治世が主調となる巻の存在〔國賀 1988〕。

栄華・事績の篡奪? 具体的な喪われしものへの追慕?

撰関家関係の行事の多さ。後白河の王権 一辺倒での理解は妥当か?

【主要参考文献】

家永三郎 1942 『上代倭絵年表』(座右宝刊行会。増補版、墨水書房 1976)

- - - - 1946 『上代倭絵全史』(高桐書院。増補版、墨水書房 1976)

池田忍 1988 「院政期における行事絵制作をめぐって - 最勝光院御所障子絵の再検討 - 」
(『学習院大学文学部研究年報』34)

- - - 1991 「逸翁美術館蔵『競馬絵』の紹介とその性格」(『秋山光和博士古稀記念 美術
史論文集』便利堂)

伊藤大輔 2001 「似絵の描かれた場 - いわゆる呪詛論を視野に - 」(『国華』1274)

- - - - 2002 「似絵と尚齒会図」(『岡山大学芸術学研究』8)

川島絹江 1993 「『承安五節絵』詞書 本文と校異」(『研究と資料』29)

- - - - 1994 「『承安五節絵』の流伝」(『東京成徳短期大学紀要』27)

國賀由美子 1988 「『年中行事絵巻』朝覲行幸巻の制作に関する一試論」(『古代文化』40-1)

- - - - 1994 「年中行事絵巻」(『平安時代史事典』角川書店)

- - - - (担当) 1995 『月次絵』(滋賀県立近代美術館特別展図録)

栗本徳子 1994 「『年中行事絵巻』「真言院」の段の成立について」(『文化史学』50)

黒田日出男 1998 「日本史にとっての絵画と中世文学」(『中世文学』43、『謎解き日本史・

- 『絵画史料を読む』1999・『絵画史料で歴史を読む』2004 に改稿再録)
- 小松茂美 1977 「「年中行事絵巻」誕生」(『日本絵巻大成 8 年中行事絵巻』中央公論社)
- 塩出貴美子 1986 「吉備大臣入唐絵巻考 - 詞書と画面の関係 - 」(『文化財学報』4)
- 鈴木敬三 1959 「住吉模本 年中行事絵巻解説」(古典芸術刊行会、複製付録)
- - - - 1959 「年中行事絵巻「内宴」について」(『日本歴史』134)
- - - - 1960 『初期絵巻物の風俗史的研究』(吉川弘文館)
- - - - 1974 「承安五節絵考」(『國學院大学大学院紀要』6)
- 谷口鐵雄 1944 「信貴山縁起絵巻に於ける同一構図の反復について」(『清閑』19、『東洋美術論考』中央公論美術出版、1973 再録)
- 角田文衛 1995 「建春門院」(古代学協会編『後白河院』吉川弘文館)
- 福山敏男 1968 「年中行事絵巻について」(『日本絵巻物全集 24 年中行事絵巻』角川書店)
- - - - 1984 『福山敏男著作集 5 住宅建築の研究』(中央公論美術出版)
- 藤原重雄 1996 「最勝光院御所障子絵ノート - 『玉葉』記事の解釈をめぐって - 」(『遙かなる中世』15)
- - - - 1999 「名所絵・行事絵としての最勝光院御所障子絵 - 法金剛院とのかかわり - 」(『美術史』146)
- - - - 2001a 「行列図について - 鹵簿図・行列指図・絵巻 - 」(『古文書研究』53)
- - - - 2001b 「(報告要旨) 院政期の行事絵と仮名別記」(『東京大学史料編纂所報』36)
- - - - 2002 「賀茂祭絵詞」(『チェスター・ピーティアー・ライブラリィ 絵巻絵本解題目録』勉誠出版)
- - - - 2004 「中世絵画と歴史学」(『日本の時代史 30 歴史と素材』吉川弘文館)
- 三島暁子 2002 「室町時代宮中御八講の開催とその記録 - 真字記と仮名記 - 」(『武蔵文化論叢』2)
- 源豊宗 1976 「年中行事絵巻」・「承安五節絵」(『大和絵の研究』角川書店、初出 1961・1962)
- 村重寧 1991 『絵巻 信貴山縁起と粉河寺縁起』(『日本の美術』298)
- 山本陽子 2002 「『承安五節絵』の似絵性について - 住吉内記系の模本による - 」(『跡見学園女子大学紀要』35)

〔付記〕 報告者は COE 科研の研究分担者に含まれておらず、本報告は、科学研究費補助金「近世公家社会における故実研究の政治的社会的意義に関する研究」(研究代表者・吉田早苗)、「禁裏・宮家・公家文庫収蔵古典籍のデジタル化による目録学的研究」(同・田島公)、「画像史料解析による前近代日本の儀式構造の空間構成と時間的遷移に関する研究」(同・加藤友康)による研究成果を含むものです。

研究集会当日は大変な猛暑のなか多くの方々に御参会いただきながら、拙い報告となりましたこと、お詫び申し上げます。自らの非力を客観情勢に責任転嫁するものではありませんが、人文学としての歴史学にとって根幹となる作業、すなわち史料や研究を読むことを遂行する困難さが増してゆく状況に対し、困惑を覚えます。わたくし自身の志向は、様々な批評理論・分析概念を適用して私 の斬新な解釈を競い合うことよりも、それらとは無縁でありえませんが、史料の成立要因・文脈を最大限に把握し、史料をして語らしめる歴史学 - おそらく史料編纂所よき伝統でありましょう - にあり、昨今の国際化と相容れないものであっても、その実践を心がけて研鑽を積みしたいと思います。